

専門部会・分科会の作業進む

2,000の事務事業を調整中

合併に関する事務は多岐にわたっています。中でも、新市建設計画の策定とともに二本柱といわれているのが、事務事業の一元化です。

その基礎資料を策定するため、市町が実施しているすべての事

務事業を洗い出す「事務事業現況調査」は、四月の合併協議会設置と同時に始まりました。五月末には、市町の担当職員によって基礎調査が終わり、事務局に集められました。その数は、約二千項目にのぼります。

現在はこの資料をもとに、市の職員で構成する専門部会および分科会で、事務事業のすり合わせが行われています。

専門部会は十二、分科会は三十三となっており、今後も随時開催しながら、細部にわたる具体的な調整作業が進められていきます。

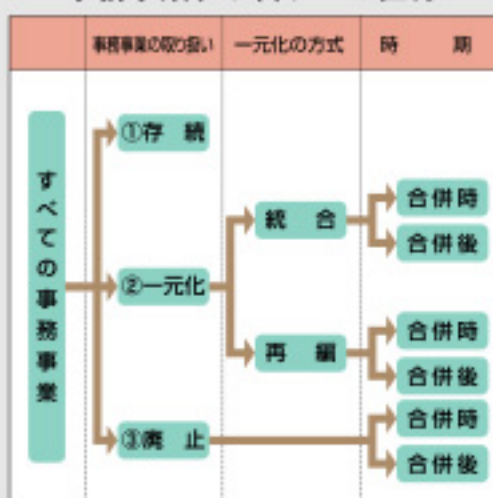
十二の行政分野ごとに設けられ、専門的な立場で事務事業の協議・調整を行います。

■分科会



市町の職員による分科会（6月3日、川島町民会館で）

事務事業すり合わせの区分



①存続
新市においても特段の調整を要せず、現行どおりに存続させる事務事業。

②一元化
新市において、統一的な考えのもとに執行していく事務事業。両市町のいずれかの事務事業の制度や仕組みを新市全体に適用していく「統合」と、両市町の制度や仕組みを改変し、新市として新たなものにしていく「再編」とに分類されます。またそれぞれが、合併時に一元化するもの、合併後に一元化するものに分類されます。

③廃止
新市において執行する目的や役割がないと判断し、廃止される事務事業。これも合併時に廃止するもの、合併後に廃止するものに分類されます。

専門部会の下部組織として必要に応じて設置します。より専門的で細かい事項の調整を

行う場です。ここで調整した事項を専門部会に上げていきます。

●表紙のことは おすすめスポット「川島町」 じゃぶじゃぶの河原

私のおすすめは、河川環境楽園です。中でも「じゃぶじゃぶの河原」。この時期、週末ともなると、家族連れであふれかえっています。河原周辺の場所取りをするため、大人たちは9時半の開園と同時に駐車場からダッシュ！木陰の涼しい場所を確保すれば、子どもたちは川遊び、大人たちはその様子を見ながらうた

た寝、お昼は家族で一緒に食事と、1日、のんびりできます。来年夏には、淡水水族館と観覧車が完成する予定。自然との共生を身近に感じることのできる河川環境楽園、ぜひ訪れてみてくださいね。
（川島町役場広報担当 青井和美さん）

◆ 今号から表紙を飾るのは、住民の方が交代で紹介する市町のおすすめスポットです。